

「財政危機」を口実にした 行財政改革に未来はない！
市長総括質疑で 厳しく追及

市民のいのちと暮らし破壊の
「京プラン実施計画」の撤回を

他都市との比較だけの職員削減でいいのか

職員800人削減を目標に部門別定員管理計画を策定。800人の根拠と目的を質すと、従来は「京都の街の特性は守る」と言っていたのに、「他都市平均とのかい離の解消が目的」と答弁。

京都には文化財が多く、非戦災都市として町家と狭い路地が多く、他都市以上に細やかな防災と消防体制が求められています。

なのに、京都市消防として初めて、西陣のご真ん中にある上京消防署大宮出張所を廃止する提案。これで「京都の特性を守る」と言えるのでしょうか。



▲「バイバイ原発きょうと」の集会・デモに参加(3月12日)



▲「うちら困ってんねん@京都」で市民要求を聞き、市政報告(3月21日)

福祉サービス切り捨てて ながら財政再建か

「財政再建」のために、社会福祉など事業見直しで600億円削減する計画。財源収入が減れば、さらにこれを上積みするという底なしの住民負担増です。

「財政効率化の一翼」として公立保育所の廃止と民間への移管、「自立促進と就労指導の徹底」の名で生活保護費削減など、福祉切り捨てが目白押しです。

市長は「保護費が減るのは素晴らしいこと」と驚くべき答弁を連発。この姿勢が職員への圧力となり、市民を追い詰めていることが分からないのでしょうか。

住民の声は聞かず、企業の儲けを優先



▶市議団の市政要求懇談会で報告(2月26日)

市の保有資産を民間企業の儲けのために差し出す「有効活用」路線で100億円超の財源確保を提案。学校統廃合による跡地を「企業が安定した事業のために」と50～60年の長期貸付する思いやりの一方で、「地域のコミュニティに」と求める地域住民の声は聞かず。

市長は「資産を眠らせておくのはもったいない」「全国は売却ばかり。京都は貸付料を財源に充てるだけ」と居直りと無反省の答弁です。



今、変おう!

京都市会議員
日本共産党

井坂

いさかひろふみ

博文

メール shikai@isaka-hirohumi.jp

井坂博文



関西広域連合議会
議員として奮闘中

3月5日、関西広域連合の2月定例会が開かれ、2回目の一般質問に立ちました。

質問テーマは、関西版総合戦略を策定することの是非と道州制移行との関係、交付金による国施策の誘導、関西人口ビジョン策定の必要性について。中央省庁の地方移転について、国の



動向と地方自治体の発展にどうつながるのか。

北陸新幹線敦賀以西の整備に関して、莫大な地元負担、並行在来線の保障、自然環境破壊の恐れについて。

また、高浜原発について、再稼働後の度重なる事故に対する認識と責任ある対応、再稼働に反対するよう求めました。改めて「今回の事故や40年超の老朽原発再稼働の動きに、国と電力会社、規制委員会への不信感が高まっており、国まかせでは無責任。再稼働の中止を強く求める」と指摘しました。

